

## ブロック別指導医講習会の実施報告

今回は、「近畿」「中国・四国」「東京」ブロックで実施されました「社会医学系専門医指導医講習会」についてご報告します。

令和7年11月7日、近畿ブロック保健所連携推進会議に合わせて「社会医学系専門医指導医講習会（近畿ブロック）」が開催されました。  
記録：楠 信也 所長（神戸市保健所）

### 人材育成におけるフィードバックの基本的な考え方

- 目的は成長促進  
・単なる評価や批判ではなく、相手の行動改善やモチベーション向上を目指す
- 具体性と客観性  
・曖昧な表現ではなく、観察した事実をもとに伝える
- タイミングの重要性  
・記憶が新しいうちに伝えることで効果が高まる
- ・相手の行動を客観的に伝え、強みと改善点を明確にすることで、「次にどう行動すればよいか」を本人が気づき、前向きに成長できるようにする

### 講師

【大阪府  
岸和田保健所】

保健所長

宮園 将哉 先生



今年度、近畿ブロックでは堺市民芸術文化ホール（フェニーチェ堺）において現地開催とし、参加者数は保健所連携推進会議50名、指導医講習会40名でした。指導医講習会での講話は、前半は「社会医学系専門医制度の概要」、後半は「フィードバック技法を学ぶ」について、宮園先生の示唆に富むオリジナルな講話でした。

まずは社会医学系専門医研修の概要について、7つの基本プログラムと3年間の実践現場研修、2025年6月現在の登録数3,291名（指導医2,355名、専門医402名、専攻医534名）の報告がありました。行政医師の登録状況を経時的推移で見ますと、専門医と専攻医は2022年から2025年にかけて増加していますが、一方で指導医は年々減少しており、指導医の先生方へは更新の継続を引き続きお願いする必要があります。

後半では、フィードバック技法について指導医が理解しておくべき方法についての講話でした。社会医学系専門医研修プログラム整備基準（2020年3月29日版）には、指導医層のフィードバック法の学習について「指導法およびフィードバック法の標準化のため指導医マニュアルによる学習を行う」と記載されています。

人材育成におけるフィードバックの基本的な考え方として、①目的は成長促進、②具体性と客観性、③タイミングの重要性があり、相手の行動を客観性に伝え、強みと改善点を明確にすることで、「次にどう行動すればよいか」を本人が気づき、前向きに成長できるようにすることが重要になります。

フィードバック技法の具体的モデルとして、SBIモデル（Situation状況、Behavior行動、Impact影響）、FEEDモデル（Fact事実、Effect影響、Expectation期待、Do/Direction行動／方向性）、サンドイッチ型（ポジティブ→指摘・改善点のネガティブ→ポジティブの順で伝える手法）、ペンドルトン型（まず本人に自己評価をさせてその後に指摘を加え、自ら改善点を見つけさせる対話型の手法）の詳細について説明がありました。

最後には、フィードバックをする際に6つをすべて含めることが重要で、①感謝を伝える、②あなたが観察したことを述べる、③その結果や影響を具体的に述べる、④相手の話を聞いて、さらに詳しく教えてもらう、⑤安心感を与える、⑥次のステップを確認する、ことを意識して、指導医として良いフィードバックに心がける重要性を理解することができました。

令和7年11月21日、中国・四国ブロック保健所連携推進会議に合わせて「社会医学系専門医協会指導医講習会（中国・四国ブロック）」が開催されました。  
講師・記録：岩瀬 敏秀 所長（岡山県備前保健所）



#### 講師

【岡山県  
備前保健所】

保健所長

岩瀬 敏秀 先生



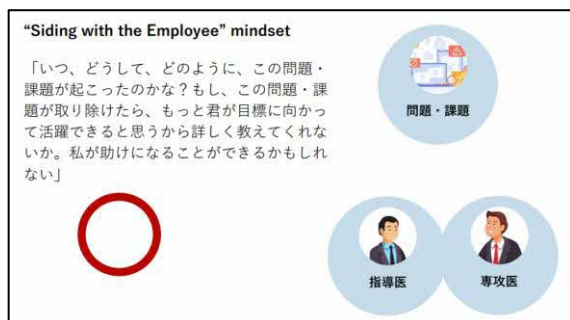
30名を対象に「フィードバック技法」をテーマとして指導医講習会を実施した。

社会医学系専門医プログラムの指導医はベテランの公衆衛生医師が多く、自身が受けてきた指導は現在の若手医師への指導にそぐわないことも多い。知識も経験も豊富な指導医は専攻医の抱える課題に対してすぐにアドバイスをしたくなることもあるだろう。

望ましいフィードバック技法としては、「Appreciate」、「Coaching」、「Evaluation」の3つの観点から、まず専攻医の話を聞いた上で、取組に対して感謝を伝え、改善のための方策を一緒に考えることである。「まず相手の話をしっかり聞く」というこの手法は立ち話で出来るものではなく、良い指導のためには十分な時間の確保が必要である。

厳しい内容でも良いフィードバックだったと思ってもらうためには、その頑張りを認めること、正確なフィードバックであること、話し合う機会を確保することが重要である。まず相手の話を聞くことを意識し、今後の指導に臨んでいただければ幸いである。

令和8年1月22日、東京ブロック保健所連携推進会議に合わせて  
「社会医学系専門医協会指導医講習会（東京ブロック）」が開催されました。  
ミニ講義・記録：向山 晴子 所長（世田谷保健所）



講師

【香川県中讃保健所】

保健所長

横山 勝教



AP東京八重洲においてハイブリッドで行った保健所連携推進会議に引き続き指導医講習会を開催し24名の参加を得ました。東京都では2年前より社会医学系専門医「TOKYOプログラム推進委員会」の検討を再開していますが、その中でも本講習会のあり方、テーマや講師等についての意見交換、他ブロックの取組みや委員会における論点等の情報提供等を行うようにしています。今回は、以前から都の指導医からのニーズが高い「フィードバック技法」について横山先生に講師をお願いしました。東京ブロックにおける指導医講習会の講師として他自治体の先生をお招きすることも初の試みでした。

メインテーマに入る前に「コーチング」のベースとして「心理的安全性」の確保が前提となるため、向山より「心理的安全性とアサーション」についてのミニ講義を行いました。アサーティブな声かけの実例や世田谷区で今年度から開始している部長級と特別職、部長級と課長級との「1オン1」の対話によるマネジメント研修の経験をもとに、配慮事項や対話の前の準備性等について触れました。アサーティブなコミュニケーションは価値観や年齢・経験が異なるからこそ相手も自分も共に尊重し、互いに率直に思いを伝えるコミュニケーション手法ですが、ともすると肝心なことを言い合わなくなりがちな職場でこそ役に立ち、各々が成長していく職場の組織風土の基盤になるものとされています。

本論の「フィードバック技法を学ぶ」では、対話によるコーチングのフィードバックにあたって、指導医に必要なマインドセットについて、丁寧かつ具体的に好事例と配慮・注意すべき事項について解説がありました。悩んでいた指導医にとっても、これから専攻医を担当する指導医にとっても参考になる示唆が豊富でした。時間に限りはありましたが、会場参加の受講者から幾つか熱心な質問もあり、例年にも増して充実した講習会となりました。公衆衛生医、社会医学系専門医は入職の動機も、経験も、おかれている職場環境なども多様です。しかし、今回のフィードバック法は、社会医学系専攻医にとどまらず、広く職員にも応用しうる実践法であり、私にはある種の「哲学」のように感じられました。

楠信也所長、岩瀬敏秀所長、向山晴子所長にはご報告を作成いただきありがとうございました。  
講師につきましては、宮園将哉所長、岩瀬敏秀所長、向山晴子所長、横山勝教所長ありがとうございました。  
委員会としても指導医講習会の充実に努めてまいります。引き続きZENHO通信をよろしくお願いいたします。

発行責任者：宗 陽子（公衆衛生医師の確保と育成に関する委員会委員長）